

プログラム②

見えてないことと見てみよう

ねらい

- 異なる視点でモノを見ることをきっかけに、自身の成長に気づく。
- 自身をふりかえり、自分の成長の確認をする。

実施時間	60分	対象学年	小学校5年生～中学生	実施人数	30人
------	-----	------	------------	------	-----

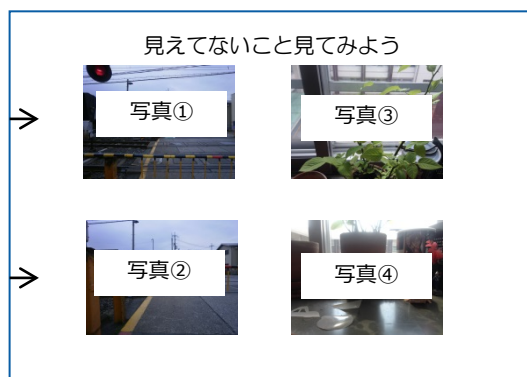
時間	進行・ポイント等	トークシナリオ(例)
導入 17分	1.講師あいさつを行う。 1) プログラム開始のあいさつや担当講師の自己紹介を行う。(2分) ①担当講師の自己紹介や、プログラムの概要の提示などを行い、参加者が緊張せずに楽しんで取り組めるよう働きかける。	皆さんこんにちは。私の名前は〇〇です。 普段は●●●●をしています、今日はこのプログラムの講師を担当します。よろしくお願いします。 今日のプログラムは、普通の学校の授業のように教科書を使うものではなく、全体ワークやグループワークを通して、皆さんそれぞれに新しい気づきがあればいいと考えています。 緊張せずに、自由に感じたこと気づいたことを、どんどん発表してください。
	2.異なる視点を楽しみ、参加意欲を引き出す。 1) 写真を使って、目線の高さによって見える世界が違うことに気づかせる。(14分) <div>準備物</div> <ul style="list-style-type: none">写真カード(写真①～④) <div>ワーク</div> ①写真を4枚提示し、何を写したものであるかを自由に発言させる。 ※挙手によるものではなく自由に発言をしてよい、ということ伝え、発言が出てこない場合は、3、4人の参加者を指名し、発言を呼びかける。 ※発言に対しては、講師は相槌を打ったり、コメントをしたりして、反応を示す。	ここに4枚の写真があります。 <div>4枚の写真を提示する</div> (写真①②指しながら) これは何を写していますか？ 思ったことを自由に発言してくださいね。 その通り、踏切です。 では(写真③④を指しながら)、これは？ はい、ありがとうございます。
	<div>写真①</div>  <div>写真②</div>  <div>写真③</div>  <div>写真④</div> 	
	②2段の写真をくらべて、気づいたことを自由に発表させる。(5分) ※発言に対しては、講師は相槌を打ったり、コメントをしたりして、反応を示す。	上の段の写真と下の段の写真は何か違います。 何が違うと思いますか？ <div>考えさせてから3人程度に発表させる</div>

時間	進行・ポイント等	トークシナリオ(例)
導入 17分 続き	<p>③上の段は身長150センチの目線から写した写真で 下の段は身長110センチの目線から写した写真で あることを説明する。 ※実際に110センチ、150センチがどの高さかを 示すと参加者はイメージしやすい。 あらかじめ黒板などに150センチと110センチの 位置を示しておく、スムーズに進行ができる。</p> <p>④目線が異なる結果、起こりうる違いを考えさせる。 (6分)</p> <p>2) 成長を意識することで、これまで見えていなかった ことが見えてくることを伝える。(1分) ※目線による見え方の違いは、発育に伴う 自然な成長の結果であることをおさえる。</p>	<p>実は上の段の写真は身長150センチの目の高さで撮影した ものです。150センチとはこのあたりです。</p> <p>150センチの高さを示す</p> <p>そして、下の段の写真が身長110センチの目の高さから 写した写真です。 小学1年生の平均身長が110センチです。 そして、110センチとはこのあたりです。</p> <p>110センチの高さを示す</p> <p>110センチと150センチでの身長の高さの違いはイメージ できましたか。</p> <p>皆さんの中には身長150センチくらいの人もいると思いますが、 身長が150センチあると、写真のように遮断機が下りていても、 遠くまで見通すことができます。 でも、小学1年生くらいの目線では、遮断機が下りると目の前に バーがきてしまうので、遠くが見えにくいのがわかります。</p> <p>小学1年生と皆さんとでは、背の高さも、見え方も違います。 この2段の写真から小学校の最小学年である1年生と成長した 自分たちの見え方の違いをイメージしてみてください。</p> <p>こちらの窓からの景色は同じ場所からの景色だということが すぐにわかりましたか？</p> <p>(写真③④を指しながら) この2枚を見くらべて何か感じることはありませんか。</p> <p>3人程度に発表をさせる</p> <p>小学1年生の頃と今を比べると、背が高くなり、その結果、 見え方に違いが生まれるということがわかりました。</p> <p>個人差がありますが、身長は発育に伴い自然に成長する ものです。 皆さんには身長以外にも、成長したことがあるはずですよ。 次のワークではそれらのほうに目を向けてみましょう。 何かほかのことも見えてくるかもしれません。</p>
展開 41分	<p>3.自身をふりかえることの大切さに気づかせる。</p> <p>1) 自身の成長について考えさせる。(31分)</p> <p>準備物 ・ワークシート</p> <p>ワーク</p> <p>①4～5人のグループに分かれ、リーダーを1人決める。</p> <p>②小学校に入学した頃から現在までに自分はどんな 成長をしたのかを考える。(3分) ※身体的な成長だけでなく、能力などの成長にも 注目してみるように促す。</p>	<p>それではグループのリーダーを1人決めてください。</p> <p>リーダーはグループのメンバーにワークシートを1枚ずつ 配ってください。</p> <p>皆さん1人1枚ありますか？ 足りないグループは取りに来てください。</p> <p>では皆さん、小学校に入学した頃を思い出してください。 今の自分は小学校入学の頃と比べて、どんなところが 成長しましたか？ 1つには身長が伸びたことがありました。</p> <p>ほかにどんな成長をしたでしょう。3つくらいあげて みてください。</p> <p>例) 小説が読めるようになった、速く走れるようになった、 食べる量が増えた、体重が増えた、 料理ができるようになった、……など</p> <p>2、3の例をあげさせ、板書をする</p> <p>そうですね、身長だけではなく、今あげてもらったような ことも成長しましたね。</p>

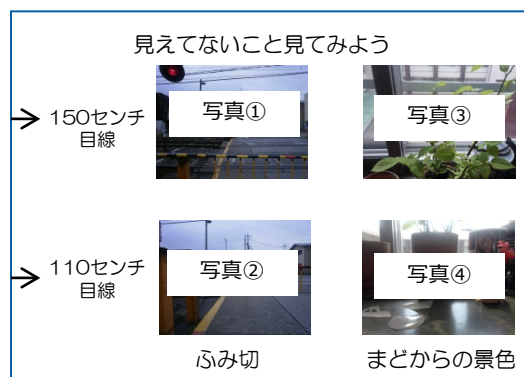
時間	進行・ポイント等	トークシナリオ(例)
	③個人でワークシートに、小学校に入学した頃から現在までの自分の成長をできるだけ多く書き出させ、グループ内で共有させる。(5分) ※講師は各グループを見て回り、共有がうまくいっていないようであれば、「どんな成長に気づいた?」「確かにそれは成長したことだね」「そんなことができるようになったんだ!」「よく気づいたね」「同じ成長をした人いる?」などの声掛けをして発言を促す。	このような成長をできるだけ多く見つけて、思いつく限りワークシートの①「小学校入学時からどんな成長をしたか考えよう」の欄に書き出してください。 今はグループ内で相談はせず、自分1人で考えてくださいね。 時間は2分です。 自分の成長をワークシートに列挙させる はい、手を止めてください。 自分の成長を見つけることができましたか? 今から各グループで、お互いが見つけた成長を報告し合ってください。 メンバーの成長をワークシートの①の空いたスペースにメモをしてもかまいません。また、メンバーでワークシートを見せ合ってもかまわないですよ。 あとでリーダーさんには、3つずつ発表をしてもらうのでどの成長を発表するかも話し合ってくださいね。
	④グループ内で共有したことを代表者に発表させる。(4分) ※講師は発表の内容を黒板などに板書し、全体で共有できるようにしておく。	グループで共有させる 報告し合えましたか? 皆さん、どんな成長が見つかりましたか? その場でかまわないので、グループのリーダーさん、立って、それぞれが成長したことを3つずつ発表してください。 板書をしながら、リーダーにその場で発表をさせる いろんな成長を見つけましたね。 発表を聞いて皆さん何か気づいたことはありませんか? 実は皆さんのあげてくれた「成長」は、身長が伸びるなどの「体の発育による成長」と、努力によってできなかったことができるようになった「努力による成長」の二つに分けることができます。 苦手を克服したり、できないことができるようになるために練習を重ねてできるようになったりというのは「努力による成長」ですね。 今皆さんが発表してくれた「成長」の中から、「努力による成長」を丸で囲むなどをして、しるしをつけてみましょう。
	⑤「発育による成長」と「努力による成長」の2種類の「成長」があることを確認し、「努力による成長」を抽出させる。 ※ <u>発育による成長</u> <ul style="list-style-type: none">・身長・体重など身体的な要素による成長・力の強さや歩く速さなど体力的な要素による成長 <u>努力による成長</u> <ul style="list-style-type: none">・練習を重ねることのできなかったことができるようになる・苦手を克服する	「努力による成長」を見つけさせる 「努力による」成長を見つけることができましたね。 それでは、今皆さんがふりかえって見つけた自分の「努力による」成長の中から、特に印象や思い出に残っていることを1つだけ選んでワークシート③「努力による成長の中から特に印象に残っていることを1つ選んで、努力したことや努力を始めたきっかけを書こう」の「成長の内容」に記入してください。
	⑥「努力による成長」の中から、特に印象や思い出に残っていることを1つ選び、成長するために努力したことや努力を始めたきっかけについて短い文章で書かせる。(6分)	ワークシートに記入させる 成長するために何を努力したのか、努力を始めたきっかけは何だったのかについても、「努力をしたこと・努力のきっかけ」の欄に短い文章でかまわないので、書いてみてください。 時間は3分です。 ワークシートに記入させる 3分が経ちました。書けましたか? では何人かに発表してもらいます。 誰か発表をしてくれる人はいますか? (特に発表者の手が挙がらなければ、5人程度を指名する)
	⑦講師が5人ほどの発表を呼び掛け、全体で共有させる。(8分)	

時間	進行・ポイント等	トークシナリオ(例)
展開 41分 続き	2) ワークを通して感じたことや気づいたことをワークシートに記入させ、グループ内で共有させる。 (10分)	<p>全体で共有させる</p> <p>皆さん成長のためにさまざまな努力をしたんですね。それでは、これまでのワークをふりかえって、気づいたことや感じたことをワークシート③の「気づいたことや感じたことを書いて、グループのメンバーで報告しよう」の欄に3分で書いてください。</p> <p>ワークシートに記入させる</p> <p>3分が経ちました。では、記入したことを、グループ内で報告し合ってください。</p> <p>グループで共有させる</p> <p>グループでの報告は終わりましたか。では、誰か自分の気づいたことや感じたことを発表してください。</p>
	4. 立場による違いから自身をふりかえることは、自分の成長の確認につながることを伝える。	<p>今日は小学校1年生と自分との身長の違いやそれによる見え方の違いを比較することが、自身をふりかえるきっかけとなり自分の成長を確認することができました。</p> <p>小学校1年生から小学校6年生まで、与えられた時間は誰にとっても6同じ6年間です。しかし、成長したことやそのために努力したことは人それぞれだったと思います。人それぞれだからこそ、自分ができることをあたりまえだと思ったり、ほかの人が苦手を感じることやできないことをからかったりするのではなく、「できること」を評価し合い、それぞれの成長を大切にしてほしいと思います。</p> <p>今日はこれで終わります。ありがとうございました。</p>
まとめ 2分	<p>1) 自分自身を時々ふりかえって分析してみることで、自分の成長を確認することができるということを伝える。</p> <p>2) 人それぞれ、成長したことやそのために努力したことは異なっているので、全ての人に自分と同じ能力があるわけではないということを伝える。</p>	

アイスブレイク時における板書例



アイスブレイク開始時には、使用する4枚の写真の提示するのみとする



参加者からの意見をもとに何を写した写真であるのかを（踏切・窓からの景色）その都度黒板に言葉を書き込んでいき、アイスブレイク③での目線の違いの説明時に、110センチ目線、150センチ目線との説明を書き込む。

活動におけるワンポイントアドバイス

1

開始前にワークの準備をしておきましょう。

- ・下記にアイスブレイク時における板書例が示してあります。150センチ目線の写真2枚を150センチの高さに貼り、110センチ目線の写真2枚を110センチの高さに貼っておきましょう。そして150センチの位置と110センチの位置にしるしをつけておきましょう。

2

身体的な事柄への言及はさけましょう。

- ・平均身長が150センチに達していない6年生もいます。身長や体重のほか、身体的な外見に対して、意識をしている参加者がいることが考えられるので、身体的な言及はさけましょう。

3

リーダーは講師が指名してもよいでしょう。

- ・リーダーを決めることに時間がかかる可能性があります。その場合は、講師がグループの中の一番年長の参加者にリーダーを任命してもよいでしょう。

4

具体例を提示させて、全体の理解を促しましょう。

- ・「発育による成長」と「努力による成長」の違いの理解のためには、具体的にいくつかの例を参加者に発言させて、理解を促しましょう。
- ・前段階の発表を板書した成長の中から、努力による成長を全体で共有させるなどをして、ワークシートの②「努力による成長にしるしをつけよう」の欄にしるしをつける作業を、全体で進めてみましょう。

5

参加者の意欲に合わせて必要としている支援をしましょう。

- ・ワークシートへの記入がスムーズにできていない参加者へは、記入していない理由を確認し、必要としている支援をしましょう。
- ・無理に記入を促すことは避け、できるだけ参加者の考えを引き出すことを試みましょう。